

令和6年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

# 医療現場の業務DXに資する AI人材育成に向けた学科転換事業

## 合同会議

(企画推進委員会/プログラム開発委員会/実証・検証委員会)

令和7年2月21日 13:00~15:00

進行資料

# 事業の目的・背景

## ■目的

医療事務の実務を支える診療情報管理士について、情報システムの基本的な仕組みへの理解やAIリテラシーの向上と病院実習を重視した育成カリキュラムへと移行することで、医療DXを牽引する人材を輩出し、地域医療の質向上と持続可能な医療システムの構築に寄与する。

## ■背景

### 社会動向

#### 医療DX令和ビジョン2030

- ・全国医療情報プラットフォームの創設・医療DX推進機構の設置
- ・電子カルテ情報の標準化・普及
- ・診療報酬改定に伴うDX推進

### 医療現場の課題

#### 医療情報管理に加え、活用への展開

- ・医療データの分析・活用に基づく経営
- ・医療DX導入によるサービス向上・効率化

#### 医療DXの実務を支える人材の不足

- ・情報システムの基本的な仕組みへの理解
- ・データの土台を整備し、分析結果を経営に生かすためのスキル

### これからの診療情報管理士に求められる能力

#### 病院において医療DXを推進できる能力・スキル

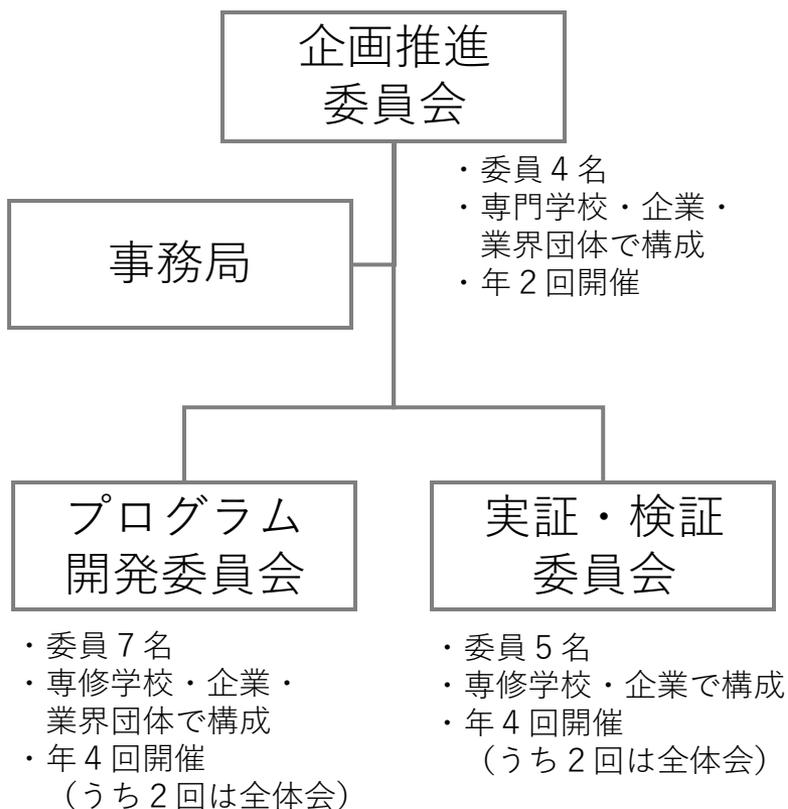
- ・ITに関する基礎理解
- ・医療制度等の基本知識
- ・AIやビッグデータを活用する知識
- ・医療経営への応用できるアウトプット能力
- ・医療現場で適切に連携・情報共有ができるコミュニケーション能力 等

資格取得中心の教育モデルから、

医療DXに対応した実習重視の診療情報管理士の育成カリキュラムへの転換

# 実施体制と期待される役割

## 【実施体制】

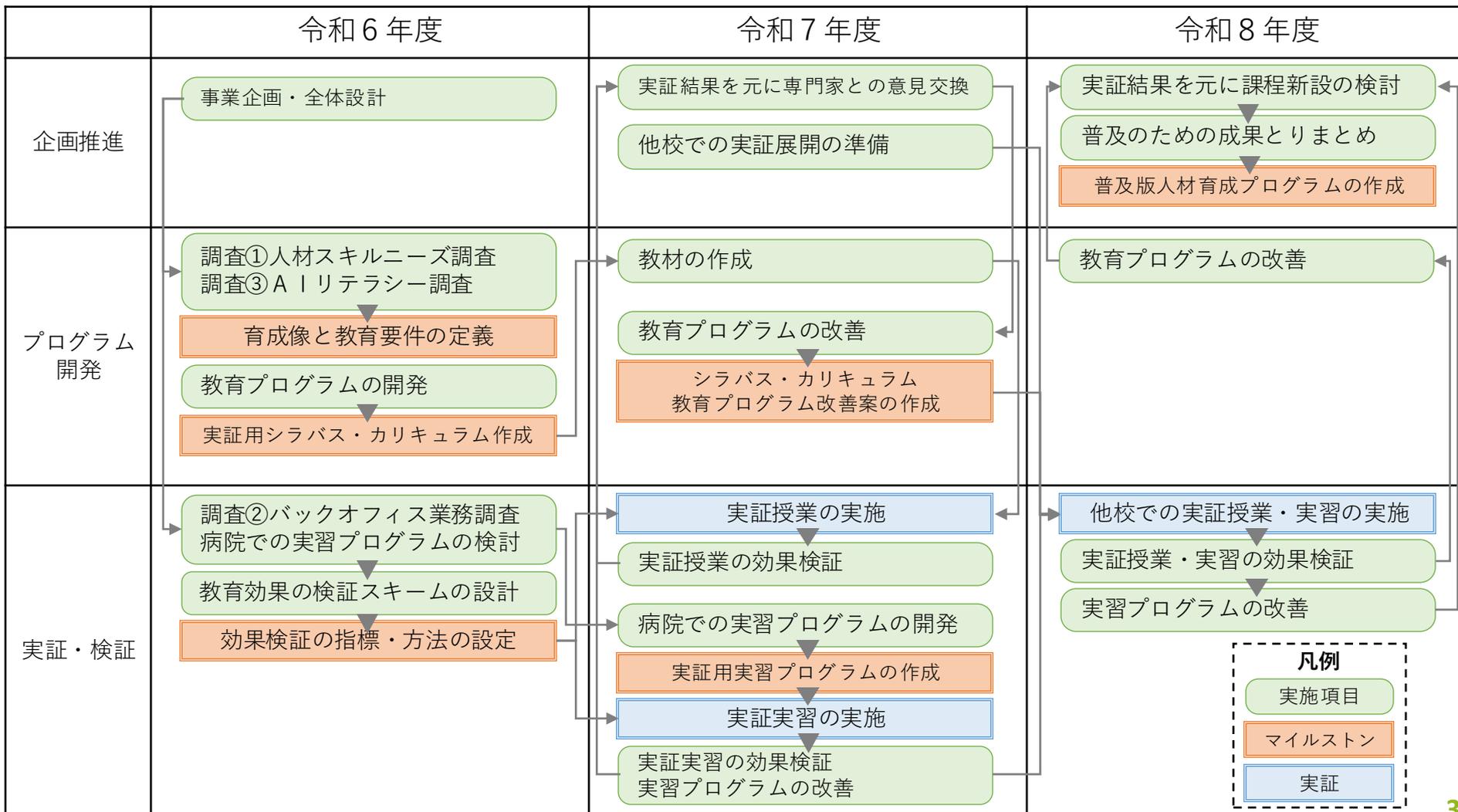


## 【各委員会の役割】

委員会	役割
企画推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業方針や進捗状況、予算執行管理等の統括</li> <li>・事業計画および予算執行に関する管理を担当。</li> <li>・両委員会の進捗状況および会計等事務処理を監督する。</li> <li>・事業推進における課題の洗い出しと対応策の検討。</li> <li>・本事業の普及施策を検討する。</li> </ul>
プログラム開発委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育プログラム開発に必要な情報の調査、教育プログラム開発</li> <li>・病院等にヒアリングを行い、診療情報管理士に求められるスキルや知識を特定する。</li> <li>・特定した必要スキル、知識を分類し、教育カリキュラムに反映させる内容を確定する。</li> <li>・上記をもとに教育プログラムの開発（カリキュラム、シラバス、コマシラバス等）を行う。</li> </ul>
実証・検証委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実証・検証方法の検討、実証・検証結果に基づく改善事項の提案</li> <li>・開発したプログラムの実証方法（授業・実習）の検討、効果の検証を行う。</li> <li>・検証結果をプログラム開発委員会にフィードバックする。</li> </ul>

# 3年間の事業フローとマイルストーン

- 調査事業は事務局中心に実施。開発・実証・検証は各委員会を開催しながら委員協力のもと実施する。



# アジェンダ

---

- 1) 各委員会での議論の共有
  - プログラム開発委員会（オンライン@2025年1月22日）
  - 実証・検証委員会（オンライン@2025年1月27日）
- 2) カリキュラム及びAI基礎の内容、授業運営・実証授業についての意見交換
- 3) 次年度の実習の進め方
- 4) 本事業における効果検証の方法の検討状況
- 5) 先行事例調査結果

# 1) 各委員会での議論の共有

## 1. AI人材の観点からの人材イメージに関する意見交換（共通議題）

バックオフィス業務・医療事務業務の効率化について、AIを活用<sup>(1)</sup>して、診療情報管理士として必要な知識・情報から医療現場のニーズに基づく改善プロセスの実践<sup>(2)</sup>を企画・実施できる人材

育成像と教育要件（仮説）	該当するカリキュラムの変更・追加部分
<p>(1) AIを活用 【主に生成AI】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 医療システム運用に向け、まずは業務効率化の観点から、AI技術を導入・活用できる</li> <li>➢ 業務改善プロセスでのAI技術の活用</li> <li>• AI活用に関する自己学習を続けるための基礎知識・素養が身についている</li> <li>➢ 業務内へのAI技術の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IT・AIリテラシー</li> <li>• データ分析・統計学（データサイエンス）</li> <li>• 医療情報技師対策授業（プログラミング、ネットワーク構築、データベース管理、セキュリティ対策等）</li> <li>• 実習のアップデート</li> </ul>
<p>(2) 改善プロセスの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 医療現場と情報技術の橋渡しをすることができる</li> <li>• 医療現場の業務分析と改善プロセスの考え方を習得している</li> <li>• 業務改善に向けてデータを用いて検証しながら進めることができる（なぜそういえるか、説明できる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IT・AIリテラシー</li> <li>• 医学的知識、専門用語</li> <li>• コミュニケーション</li> <li>• 実習前後指導等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• データ分析・統計学</li> <li>• 実習のアップデート</li> </ul>

# 1) 各委員会での議論の共有

## 1. AI人材の観点からの人材イメージに関する意見交換（共通議題）

- 方向性については、いずれの委員会でも概ね合意。
- 主な意見は以下の通り。

プログラム開発委員会	実証・検証委員会
<p><b>方向性の確認</b></p> <p>AI活用の範囲や定義の明確化が必要</p> <p><b>医療情報技師との関係</b></p> <p>診療情報技師と合わせて医療情報技師の資格取得も目指す場合、カリキュラム変更や合格率への影響が懸念点</p> <p><b>医療機関のニーズ</b></p> <p>データ分析や統計知識については、学習範囲の調整が必要</p> <p><b>教育設計</b></p> <p>AIリテラシーやセキュリティ知識を学生に習得させることが重要</p>	<p><b>AI教育の課題</b></p> <p>誰が教えるか(指導レベル調整が必要)</p> <p>AIエンジニアの講師招聘や既存の学校教員への勉強会が必要か</p> <p>医療施設の採用基準としては、AI活用だけを期待して採用しない</p> <p><b>医療現場のAI活用で育成すべき人材像</b></p> <p>医療とAIを同時に学ぶことで、課題解決と技術のマッチングが可能になることに期待</p> <p>AIへの素養を持ちつつ、現場業務を理解できる人材育成が重要</p>

# 1) 各委員会での議論の共有

## 2. カリキュラムツリー、AI関連科目の試作案に関する意見交換 (プログラム開発委員会)

- 1年次: AI基礎を学ぶとともに、制約の中でAIを活用する能力を養う。
- 2年次: 医療現場におけるAI適用シーンを見つけ、課題解決演習を行う。
- 3年次: 最新技術の動向を学び、実践力を高める。

### 主な意見

#### 教員の確保・育成

- AI関連の授業を担当できる教員の確保が課題
- 外部講師の確保や、意識合わせ等のために専門学校教員向けに学習機会の提供

#### 実習先との調整

- AIを活用する上で「どこまでの内容を含められるか」については、実習先となる医療現場のニーズ・実情との調整が必要

#### AIツール

- 医療DXにおける本事業でのAIイメージが不明瞭 → 生成AIの活用を中心

#### 教材開発

- e-learning教材の作成も検討して、教員にも学習機会を提供

# 1) 各委員会での議論の共有

## 2. 実習プログラムの草案についての意見交換（実証・検証委員会）

- 業務フローの作成を事前に学習（非効率な業務をデジタル化・効率化）
- 2年次に企業インターンシップによる課題解決までを体験した上で、医療施設での実習で業務フローの課題発見までを実施

### 主な意見

#### 実習の現状と課題

- 現在の病院実習は窓口対応やフロア業務が中心
- IT・AI導入に合わせた新しい実習の方向性が求められる

#### 受け入れ病院側の課題

- 実習の負担が大きく、指導担当のスタッフが必要そう
- 実習を行う部署によって対応可能な内容が異なる可能性がある
- 学生の就職につながる実習なら、病院側の受け入れ意欲が高まるのでないか

#### 受け入れ病院の確保

- 学校側で明確な実習プログラムを提示し、病院側の負担を軽減できるか
- 2年次までの実習では広く医療施設の協力を集い、3年次の施設は絞りこむ

## 2) カリキュラム及びAI基礎の内容、授業運営・実証授業についての意見交換

### 資料

- 2-① AI & 診療情報管理士科\_カリキュラムツリー
- 2-② 25年度シラバス (AI基礎 I)
- 2-③ 授業運営・教育効果計測の方針

### 意見交換

- 質疑応答
- 教育プログラムの一般化に向けた意見交換  
(主に学生目線からの論点の深掘り)
  - **【教育】** 各専門校における生徒特性とのカスタマイズ
  - **【医療】** 医療施設でのAIリテラシー等の活かし方  
(主に就職して間もない時期)

### 3) 次年度の実習の進め方

---

#### 資料

- 3 AI & 診療情報管理士科 3年間の実習の流れ

#### 今後について

- 実証実習を経て、多様な病院でも受け入れしやすいように、実習プログラムをいくつかのパターンにまとめる。
- 今後、各委員へ個別に具体的な依頼・調整をお願いしたい。

## 4) 本事業における効果検証の方法に関して

---

以下の2つの観点から効果検証の方法を設計中

- 学生のAI習熟度の検証
- 教員の教授スキルの検証  
(実習プログラムについては今後検討)

詳細は別紙参照

# 5) 先行事例調査結果 アンケート結果

・ 詳細は参考資料

受付前～受付

## RPA活用

- ・ RPA(+AI) @北海道循環器病院
- ・ RPA(ドコモ) @札幌厚生病院
- ・ RPA活用による業務改善@美原記念病院

診療  
(外来・入院)

## 診断書等の入力・管理業務

- ・ Documaler Cloud (診断書等文書作成)
- ・ Cocktail AI (テンプレートから医療文章生成)
- ・ HRジョイント (バイタル記録の電子化等)
- ・ MEDI-PaPyrus (診断書作成/管理の支援)
- ・ MEDI-DPCコードファインダー～コード点検

診療中～  
診療後

## データ分析業務

- ・ MEDI-SINUS (病床管理業務支援)
- ・ EMITAS-H (電子レセプト分析)
- ・ セコムSMASH (病院経営情報分析)
- ・ MEDI-ARROWS IIIrd (経営情報分析)

## 施設基準管理

- ・ iMedy

## 救急医療

- ・ 札幌市救急医療見える化システム

## 電話対応AI

- ・ Dr. JOY (緊急度判定・データ化等)
- ・ ホスピタルアソートサービス

## ハード・インフラ

- ・ CiscoXDR@前橋赤十字病院  
セキュリティ専門家による  
マネージドサービス
- ・ DX推進室の設置  
@石川記念会HITO病院
- ・ クラウド化  
@福井大学医学部附属病院  
(+スマートデバイス・  
IoT)  
@正幸会病院 ※次スライド

## 5) 先行事例調査結果 訪問ヒアリング調査

正幸会病院（大阪府門真市にある56床の小規模病院） 2/13訪問

- スマート医療の実現による医療DXの推進
  - ①患者の医療体験の向上/オンライン診療と、
  - ②病院内の業務改善・効率化/クラウド化とAI診療
- クラウドネイティブ型のサーバ環境と電子カルテ Henry
  - クラウド化による利便性を確保し、ブラウザ上で情報環境の再現可能
- 生体認証を含む多要素によるログイン管理
  - クラウドサーバにおけるセキュリティ・個人情報管理の担保
- 丁寧な説明・計画性と、導入に向けた環境整備、礼儀正しさ、そして企業等との共同開発体制に基づくトップダウン型の推進
  - （病院業務をDX化するクラウドシステム”mawari”、iC-One（同意取得のデジタル化）等）